

地域活性化計画の変更申請について

1 概要

- 令和 5 年 9 月に江別市が炭鉄港推進協議会に入会。
- 江別市のれんが産業と炭鉄港とは密接な関わりを持っており、1898（明治 31）年に、北海道炭礦鉄道株式会社が江別村字野幌に煉瓦工場を設置し、野幌窯業の歴史が幕を開けた。
- また、れんがのまち・江別は、鉄道、石炭のまちという側面も持ち合わせており、北海道炭礦汽船株式会社の鉄道事業であった夕張鉄道株式会社は、北炭経営の炭礦からの石炭搬出、事業材料など物資の増強を目的に設立され、その鉄道の始発駅は野幌であった。
- この野幌を始発駅とする夕張鉄道は、空知地域から札幌・小樽方面への石炭運搬を飛躍的に向上させたとともに沿線地域の発展にも寄与し、北海道の運送交通上にとって重要な位置を占めていた。
- 上記の理由から江別が加わることで、近代北海道を築く基となった炭鉄港ストーリーが広がりと深みを増し、より魅力的な日本遺産になることから、ストーリーを加筆し、文化庁あて申請。

2 今回追加する構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
④⑥	ほっかいどうたんこうてつどう 北海道炭礦鉄道 のっぽろれんがこうじょう 野幌煉瓦工場 のれんが	未指定 (美術工芸品)	北炭が 1898 年に設置した野幌煉瓦工場で製造され、日本製鋼所旧火力発電所や旧北海道炭礦鉄道岩見沢工場で使われた野幌れんが。	江別市
④⑦	おうじ 王子エフテックス えべつこうじょう 江別工場 れんがそうこぐん れんが倉庫群	未指定 (建造物)	1909 年に野幌れんがで建築された市内最古の倉庫をはじめ、れんが倉庫が立ち並ぶ。前身の富士製紙の進出は江別の近代化に大きく寄与し、石炭運搬用の専用線も敷かれた。	江別市
④⑧	よねざわれんがこうじょう 米澤煉瓦工場	未指定 (建造物)	1939 年に設立され、操業中のれんが工場では道内最古。工場のシンボルである煙突は、石炭焼き時代から現在まで使われており、基部を間近に見学可能。	江別市
④⑨	たんこうてつどういさんぐん 炭鉱鉄道遺産群 やまだ (山田コレクション)	未指定 (美術工芸品)	北炭夕張鉄道、三菱美唄鉄道、三菱大夕張鉄道など、炭鉱の鉄道で使われた希少な蒸気機関車や貨車などのほか、それらの鉄道関連物品が保存されている。現在は民間団体が保存。	江別市